

開拓



士別市は、明治 32 (1899) 年に最北で最後の屯田兵が配備された場所です。通称士別屯田と呼ばれる屯田歩兵第三大隊第五中隊です。第三大隊の本部は士別市の隣町の剣淵町に置かれ、士別には第五中隊という 5 つ目の隊が配備され、士別の「開拓」が行われることとなります。

士別の屯田兵は、現在の士別市大通 1 丁目付近を基準に、屯田兵屋^{へいおく}という住宅や官舎を構え、土地の開墾や、非常時に備えた剣術や銃術などの軍事訓練を行っていました。



また、士別は屯田兵以外にも本州からの団体移住による「開拓」も行われており、上士別は奈良県の吉野団体、多寄は山形県の団体、温根別は鳥取県の団体、さらに個人による移住も行われ、町の「開拓」が進められていきました。